

議事録（次第）

-令和6年度 第3回 バイオマス分科会-

日時：令和6年12月2日（月）15：00～

場所：富士見町役場 202会議室

1. これまでの経過

- (1) 第1回 バイオマス分科会の議事概要について
- (2) 第2回 バイオマス分科会の議事概要について

2. 本日の議題

- (1) 西栗倉村の事例共有について
- (2) 富士見まちづくりラボ勉強会の概要紹介について
- (3) 今後の方向性について

3. その他



議事録（経過）

（Ⅰ）第Ⅰ回 バイオマス分科会

○分科会設立の背景と目的の説明

○事例紹介

○テーマ出し（概要抜粋）

- ・ゾーニングは町内事業者 × 専門家の体制で実施を検討するのがよいのでは。
- ・財産区有林の森林資源をベースに富士見高原リゾートと温浴施設での活用にポイントを絞り、森林資源の循環が可能なビジネススキームを検討しては。



議事録（経過）

（2）第2回 バイオマス分科会

○ゾーニング紹介

- ・なぜ、ゾーニングが必要なのか
- ・富士見町においては、どのような考えのもとゾーニングしたらいいのか
- ・本山町において、ゾーニングを行った理由から考えてみたい（先行事例）

○森林環境税の使い道の確認

○具体施策に向けたFS調査事例の紹介

- ・蓼科東急で成功している実例をもとに



議事録（経過）

（2）第2回 バイオマス分科会

○課題の共有（目指すべき施策について）

- ・ゾーニングに関しては、相談役となるフォレスターがいない。

異動がある役場職員が中間に入るためゾーニングの知識経験が足りない。

- ・林野庁のもりぞんアプリとGISデータを掛け合わせることで目標区分のゾーニングデータを作ることができる。

まずは環境保全林や木材生産林ごとに色分けを行い、森の所有者から自分の森が木材生産林に向くかどうかなど細かいデータを取れるようなしくみができるのが理想。

→増村さんを中心に検討を進める。

- ・バイオマスのポテンシャル調査は優先順位高い。
- ・バイオマスの熱利用については、しっかりとした目標を立てるべき。チップの売値、買値からバイオマスボイラーの導入が可能か関係各所から話を聞きたい。



議事録（議題）

（Ⅰ）西栗倉村の事例共有

○岡山県西栗倉村の取組紹介

- ・内容は当日限り



議事録（議題）

（2）富士見まちづくりラボ勉強会の概要紹介

10月に富士見まちづくりラボで開催した「長野県林業総合センター 小山泰弘氏」による森の勉強会の内容紹介。

○森林管理の基本

・森林を管理するときに大切なことは、目的を明確にすることが最も重要。

-木材を生産するための森林

-観光客に喜ばれる森林

-生物多様性を高める森林

-災害防止を優先させる森林

→目的を見失うことで、管理が疎かになる。

○富士見高原リゾート周辺の森

・今のままでは、手入れをしても太らない（機能が高まらない）森になる。

・何らかの管理を考えるのであれば、地利と重視すべき課題を整理し、森林ごとの目標を明確にすることが肝心。

議事録（本日の議題）

（3）今後の方向性

●委員会へ提言する（実行計画に盛り込みたい）こと

- ・町内の温浴施設（公共・民間）を中心にバイオマスボイラーの導入を検討。
- ・まずは、簡易FS調査（無料）を行い、それぞれの施設の導入可能性の有無や導入した場合の事業性（採算性）を確認。
- ・木質チップの供給者（森林整備・チップ製造）から、需要者（温浴施設）までが事業性を見込めるような体制や進め方を検討する。
- ・バイオマス分科会において森のゾーニングデータを作成し、森の所有者が「自身の森が木材生産に向くかどうか」を知ることができる仕組みづくりを目指す。
- ・これらの検討（代表的なもの）においては、いつまでにどの状態を目指すなど具体的な期日を設ける。
- ・気候変動や環境変化に対応していく適応の視点や、生物多様性向上の視点、富士見町における防災や産業のレジリエンス向上の視点、サステナブル観光の視点など様々な視点から計画を検討するべき。
- ・この計画とその実行にどれだけ多くの人携われるかが重要。

議事録（本日の議題）

（3）今後の方向性

○委員会へ提言する（実行計画に盛り込みたい）こと 以外のこと

- ・（例えば）来年度以降、検討したいこと。
- ・（例えば）実行できるか分からないが、やってみたいこと。
- ・温浴施設に留まらず花卉栽培用のビニールハウスなど、多くの化石燃料を使用している施設へのバイオマスボイラー導入検討。
- ・バイオマスボイラー導入は初期投資が課題。
→熱版PPAモデルも選択肢のひとつに。実際に県内の事例もある。
- ・ゾーニングのデータは観光部門においても観光適地を検討する重要なデータになる。
出来上がったデータを関係事業者などに提供しては。ただし、土地所有者の権利についてもよく考える必要がある。
- ・観光の視点では、エコツーリズム、PR、連携などの強化が重要。
- ・富士見町でも気候変動に関してもっと危機感を持つべき。
- ・バイオマスがどのくらいCO2を出すのか。本当に環境に良いのかなど、マクロなバランスをみた議論も必要。

議事録（その他）

○本年度の全体スケジュール

先週 第3回 事業者分科会

今週 第3回 バイオマス分科会、住民分科会

↓ 分科会からの提言を盛り込んだ実行計画（素案）作成

12月下旬 第4回委員会

↓ 委員会の意見を盛り込んだ実行計画（素案）作成

1月下旬 議会全員協議会（素案説明・意見聴取）

↓ パブリックコメント（2～3週間）

↓ パブリックコメント意見まとめ（2～3週間）

3月初旬 第5回委員会（完成報告）

3月中旬 議会全員協議会（完成報告）

3月下旬 富士見町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）公表

